

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・数値結果から学校教育目標や教育方針が全員の保護者には伝わっていない。
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・年度当初の学校だよりだけでなく、折に触れて学校だよりに掲載する。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・年度当初に学校から説明があるが、その後の検証も必要である。 ・授業参観後の懇談会の始まりの時に先生から口頭で説明するのも良いのではないかな。 ・月の学校だより、学校運営協議会等での確認による認識がある。 ・保護者より地域の方が目標・方針を理解している。解決策のように保護者が意識できる機会を増やすのは良いことである。 ・教育目標や教育方針を保護者全員に周知することは難しい。学校だよりへの掲載以外にも周知の方法を考えるべきではないか。 ・保護者は、学校を信頼しているから教育目標や教育方針を知らなくても問題ないと考えている。地域関係者は協力依頼を受けているので理解している。当然なこと。今まで通りのやり方でよい。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・どのアンケート対象者からも80%を超えている。 より多くの児童が満足できるよう居心地の良い学級づくりをしていく。
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・たくさん褒める。 ・肯定的な声掛けをする。 ・見通しが持てる環境設定をする。
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・学校はがんばっていると思うが、もっと保護者の協力が必要である。 ・児童の話をよく聞いて対話することが大事。一方的だと感じることもあるのでもう一度「話を聞くことの大切さ」をみんなで考えてみる機会があるとよい。 ・クラスの係の種類を見ると自分が子どもの頃よりも多種多様で楽しそうな係が多い。子どもが自らやりたいと思うことをやらせてくれている「可能性を発揮できる学級経営」である。学級会での話し合いの様子など自分の子どもから聞くとおもしろく、活発な意見交換が行われていることがわかるが、学校のことをあまり話さない児童も多いと聞くので先生からの発信がもう少しあると親も実感がわくのかかもしれない。 ・児童による楽しいと感じていない児童のケアを求む。 ・子ども達の評価は高いので先生方も自信を持ち、接することでさらに良い学級が作れるのではないかと。 ・学級経営に関して教職員の12%が否定的な回答を下している。この点を重く受け止め具体的な対策を講じるべきではないか。 ・児童は、活発に発言している。楽しんで営んでいる様子が見受けられる。
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・そう思うの割合を見ると教職員が感じているより、児童や保護者の方が学び合い学習をしていると思っている。 ・「聞く」ことに課題が見られる児童が多い。
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・「聞く」に関して、学校共通で「話の聴き方」を徹底し、掲示物を作成する。
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・なぜ「聞く」ことが大事なのか。「聞く」ができないとどう困るのか。具体的に考える機会があるとよい。 ・伝える内容のイラストや文字のキーワード等を提示しながらより伝わるかどうかを確認するのも良いと思う。 ・自己主張はするが人の意見を聞くことが苦手な子が増えているようなので「聞く」姿勢を定着できるようにしていくことは大事。 ・「私は～学びを深める支援策を実践している」という質問項目に教職員の19%が否定的な回答を行っている。教職員に改善すべき点があるのではないか。 ・児童はのびのびと発言、発表している。意見を否定することがなく、異なる意見を聴くことができている。
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題	・児童アンケートから児童は、学習用端末を効果的に使い、考えを深め積極的に授業に参加していることがわかる。 ・授業中や休み時間の学習用端末の使い方のルールの徹底が課題である。
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策	・GIGAスクール担当やICT機器が得意な教員による情報発信を定期的に行う。 ・タイピング練習を行う。 ・モニターを通して視覚支援の充実を図る。 ・生徒指導委員会で学習用端末のルールの確認を行い共通理解する。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価	・タブレット使用のルールを守っている児童とそうでない児童の差がかなりある。現状、守らない子に合わせてしまっていて今まで守っていた子が不遇に感じる。守らない児童にはどう接するべきなのか市や先生達といろいろな例を挙げ考えてほしい。 ・児童から「ICTの活用により積極的に授業に参加できている」との回答が多かったことはとても良いと思う。ICTを苦手なことも補いにも活用できると良いと思う。 ・冬休みの宿題のドリルパークは、その場で答えが分かったり、漢字の書き順が自動でチェックされるなどとても便利でよかった。タイピングの練習も楽しんで取り組めているので満足度は高い。 ・端末を使用して授業を行っていることは承知しているがこれにより考えが深まるとは思えない。 ・ICTの活用は不可欠な時代です。保護者へのルールの確認など徹底できるよう周知していく必要がある。 ・学習端末などのICT機器に関しては教職員よりも児童の方が積極的に活用していることがうかがわれる。教職員のICTスキルの向上によって積極的な活用が期待される。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 ・児童アンケートから児童は、運動をして体力をつけようと努力できた。 ・朝遊びに行く児童が減ってしまった。また、ハッピータイム時に教室に残る児童がいる。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 ・授業でランニング等、心拍数を上げる活動を取り入れる。 ・年度当初に朝遊びの励行、ハッピータイム時の外遊びを共通理解する。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・午前中の遊び時間にグラウンドで元気に遊び回っている。 ・児童全体に外で遊ぶ人、遊ばない人がどのくらいの割合なのか。そして、なぜ遊ぶのか、遊ばないのか、問うてみれば良い。学校でのことは児童の意見もちゃんと取り入れたうえで考えてみては。 ・コロナ禍では、児童の成長に必要な運動が不足していたとのこと。まだ、その影響を受けている児童もいると思うので声かけをお願いしたい。 ・ハッピータイムや昼休みに大なわ跳びやドッジボールをするのが楽しいと子どもから聞いている。持久走大会をやっている学校も多いと聞きますが栄小ではやらないのでしょうか。(昼休みのマラソンチャレンジのことは存じております) ・ハッピータイム以外でも積極的に校庭で体を動かす機会を作れるように働きかける必要はある。 ・教職員、児童、保護者ともに児童の体力向上に積極的に取り組んでいる姿勢がうかがわれる。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
生徒指導①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・児童、教職員、保護者のアンケートから「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値がどれも20%を超えている。児童が安心して安全に学校生活が送れるよういじめやトラブルに組織的に家庭と連携協力する。
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・学校としての対応を管理職を中心に組織的に取り組む。 ・早期対応、全体周知を徹底する。(生徒指導委員会、ケース会議等)
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・もっと地域力を活用した方が良い。 ・家庭もそれぞれいろいろな考え方があるので必ずしも対話が成り立つわけではないというのはとても感じた。学校・家庭の間を取り持つ機関があっても良いのでは。 ・児童のアンケートからは先生やお家の人に相談して解決したいという気持ちが表れているので、学校や家庭で話しやすい環境があるとよい。 ・いじめやトラブルを早期発見し大きくならないような対応が必須。また、関係機関との連携もしていくような取組があるとよい。 ・児童の20%がいじめやトラブルの解決に不安を感じている。学校、保護者が児童の不安にしっかりと向き合い適切に対応してほしい。
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・保護者の評価がやや低く、教職員の評価より児童の評価が高い。 ・児童の9割近くは自分の目標に向かって行動できている。
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・hyper-QUの分析を行い、要支援児童への指導を改善していく。 ・ほめ言葉をたくさんかける。 ・学校生活アンケート後に一人ずつ短時間の面談を行う。
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・児童のアンケート結果は、自己肯定感の高さが見えるので良い。自己肯定感の低い児童への対応が望まれる。 ・要支援の児童への指導は学校だけではなく保護者との協力も欠かせない。どのように支援できるか話し合うことは大事なことです。 ・児童の評価より保護者の評価が低い理由を分析し対応を検討すべきではないか。 ・学校は、しっかりやっている。教師を信頼している。
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題	・保護者と地域の「そう思う」「だいたいそう思う」の評価が60%台と低く、より一層個に応じた指導方法の確立が必要である。
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やうちのの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策	・学校、家庭での様子を共有し、下学年のものを取り入れたり、教材教具を作ったりする。 ・個別最適な学びと協働的な学びを実現し、令和の日本型学校を構築する。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価	・学校はよくやっている。 ・一人一人の特性を理解するには人手も時間も足りないのでは？先生の働き方改革で時間も以前より制限があり、対応しなければならないことも昔より増えている感覚。プリントの印刷などボランティア(児童や保護者など)を募って先生の負担を減らし、児童に対応する時間を増やすのはどうだろうか。 ・児童は自分の苦手なことを相談しづらい様子がアンケートからうかがえる。学校・家庭の両方で相談ができる安心・安全な環境が望まれる。 ・通常級では難しい学習について個別に対応できる環境整備をしていくことも考えていく必要がある。 ・学校は一生懸命にやっている。個人差、特性が異なるので指導は難しいがよくやっている。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・保護者への学校運営協議会、学校応援団の意義や活動の周知が十分でない。
	児童			課題解決 への方策	・学校運営協議会の内容を周知していく。 ・学校応援団の方が直接、児童や職員、保護者と関われる機会を設定する。
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・私はそうありたいと思っているが、地域や保護者が協議会や応援団のことを知っているとは思わない。 ・学校は保護者や地域に開かれていると感じる。今後ももっと連携を深めできることを協力していきたい。 ・学校応援団のことはPTAに関わるまで知りませんでした。職員室の近くに掲示物がありますが、見る人(保護者)は少ないように思うので、別の方法での広報活動が必要だと思う。PTAからも情報発信をしていきたい。 ・運営協議会そのものの存在を知らない人も多数いる。まずは認知から。 ・地域とともにある学校づくりについて保護者に活動の意義を理解し協力してもらうための周知、啓発が必要ではないか。 ・学校運営協議会等の理解を深めるのは困難。卒業すれば関心はなくなり、また、多くは日本の教育制度を信頼しているので自分が学校を良くする等と思う者は少ない。
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題	・教育の維持・向上に努めながら働き方改革を進めている。 ・C4thを利用することで電話をする時間が減ったが連絡が簡単に取れるようになったことで夜や土日に連絡がある。
	児童			課題解決への方策	・道徳の授業を学年でクラスを変えて指導し、教材研究の量を軽減する。 ・道徳の所見を1年に一度にする。 ・学校共通で「やらない」を決める。
	保護者			学校関係者評価委員会による評価	・心身の健康を一番大事にして頑張ってもらいたい。 ・先生方の心身の健康は本当に大切。ICTも活用して軽減できる部分はどんどん進められると良い。 ・先生への負担過重が心配。 ・教育の維持向上に努めながら働き方改革、業務改善を進めることが教職員の心理的な負担を増加させることにならないよう配慮が必要。 ・教師は教師として理想像を追及するのは当然のこと。自己研鑽に努める一方、教育相談等は、専門の担当者を置く等、学級担当教師の負担軽減を図るべき。
	地域				